

“心（憩い）の森”づくりにかけた5年

NPO 法人社会還元センターグループわ 「里山和楽会」の活動

道満俊徳（里山和楽会）

<里山和楽会の結成>

里山和楽会は、「神戸市シルバーカレッジ」(以下 KSC) の卒業生で作るボランティア団体「NPO 法人グループ わ」に属する一つのサークルとして、平成 19 年から里山の整備再生活動を続けております。

平成 19 年 2 月、北区にある、障害ある方の施設、社会福祉法人「かがやき神戸」から、「住宅に隣接している約 3 万㎡の山林を整備して、障害ある方と住民の交流の場にしたい。さらに、障害ある方の仕事の場としても活用したいので、力を貸してもらえないか」、とのお話がありました。当時、シルバーカレッジ生活環境コースに在籍していた私たち 15 名が、「再び学んで他のために」という建学の理念を実践出来る、その活動を引き受けることにしました。とはいっても、「里山の整備とはどんなことをすればいいのか」。誰も、知識も実務経験もなく、まったく一からの勉強になりました。

当時、シルバーカレッジの講師を務めておられた兵庫県立大学服部保教授にお願いして、兵庫方式の里山林整備再生方法をレクチャーしていただき、現地へでかけての研修、実地訓練を積んで平成 19 年 4 月から活動を始めました。15 名のうち男性は 10 名、女性は 5 名。里山の作業は春・夏・秋・冬と年間を通して途切れることはありませんが、自然の中での労働は、きついけれども、楽しく、今年で 6 年目を迎えました。平均年齢 65 歳だったメンバーは、すでに 70 歳を超えてしまいましたが、元気で、楽しく続けてこられたのは、里山林（自然の癒し）のお蔭と喜んでいきます。

<里山和楽会の活動 概要>

さて、活動内容を具体的にお話しますと、活動の基本には P (Plan)・D (Do)・C (Check)・A (Action) のマネジメントシステムを取り入れました。**Plan** 最初の活動は「かがやきの森」をどのような里山林にするのか「**グランドデザイン**」を策定、また、誰もが同じレベルで作業出来るようにする為 **Do** 「**里山林の管理プログラムと各種マニュアル類**」作りに数ヶ月かけて仕上げました。日常の活動は毎週・月曜日が定例、年間約 50 回管理作業をしています。**Check** 作業後はミーティングをして活動記録を残し、次回の予定も含めて全員にメール配信、情報の共有化をはかっています。8 月は季節から、健康を考えて里山活動を休み、学習会や研修会にあて、楽しいひと時を過ごし、メンバーの絆を深めています。これまで兵庫県立ふるさとの森公園 6 箇所、京都の独立行政法人森林総合研究所など十数か所を訪ねました。私たちの活動の場「かがやきの森東地区」は、地理的に特異な位置にあります。地域の住宅とは道路を挟んで隣接しており里山林と言うより環境林であります。それだけに、地域住民の理解と支援と関心が重要課題です。年間通じて、常に地域住民の方々と共にこの場を有効活用して頂くよう取り組んでおります。

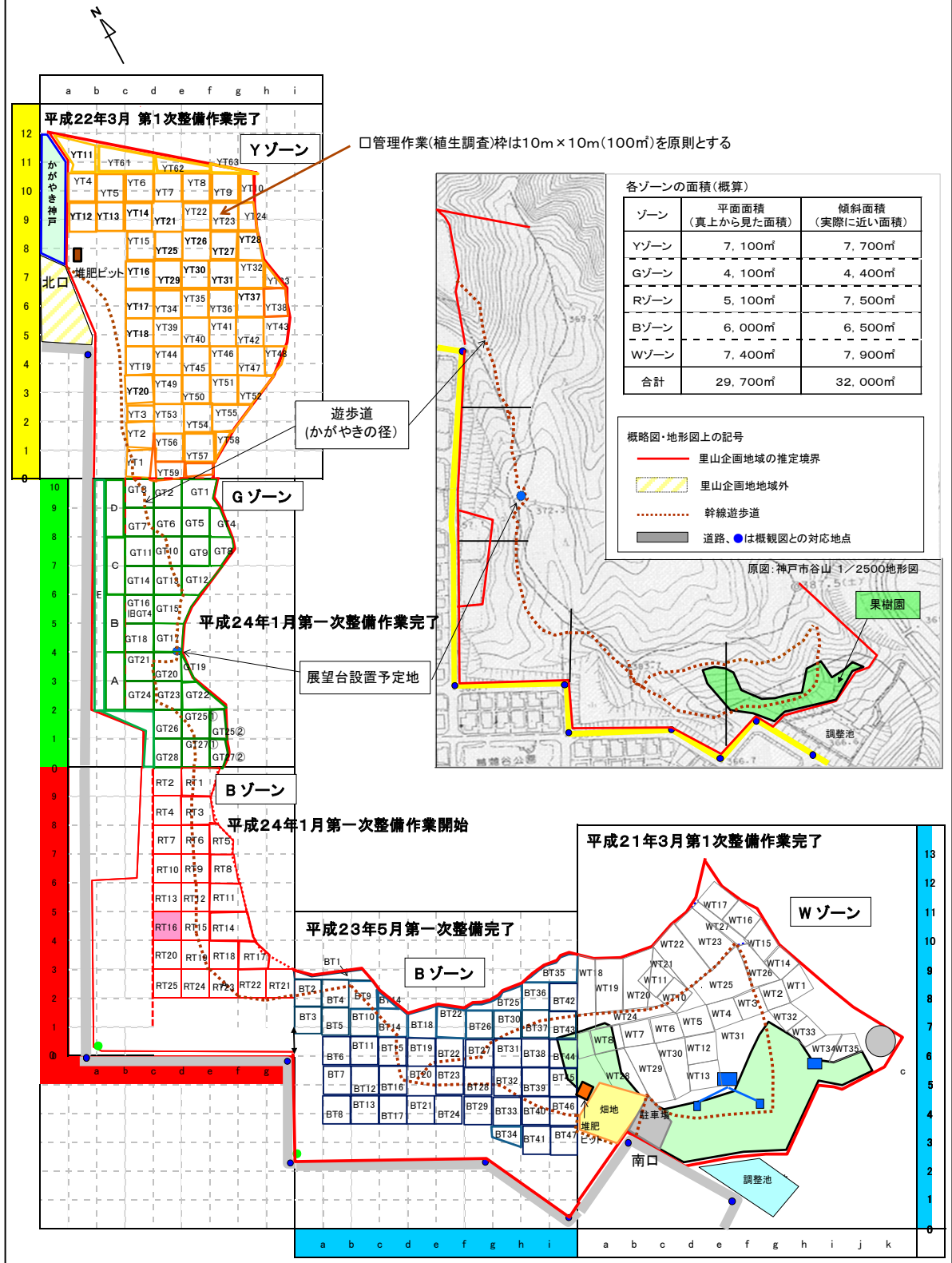
(1) 里山林の管理作業、各ゾーンの 5 年間の経過は、次ページ「整備作業概観図」参照。

管理作業枠（植生調査枠）100 ㎡を設定し、植生調査と保全木マーキング、伐採作業と林床整備が一連の作業です。並行して経年の追跡調査、植生調査や観察も継続し、生物多様性や種の保全に万全を期しております。

経年の管理作業は、2008 年 W ゾーン (7900 ㎡)、2009 年 Y ゾーン (7700 ㎡)、2010 年 B ゾーン (6500 ㎡)、2011 年 G ゾーン (4400 ㎡) の 4 つのゾーンは整備を完了しました。2012 年 R ゾーン (7500 ㎡) を整備すると東地区 (約 3 万㎡) の管理作業の完成です。

「かがやきの森東地区」里山林の整備作業概観図

2012年1月末現在



(2) 里山林の環境整備

「里山林整備 グランドデザイン」で作成した目的・目標、かがやき神戸や地域住民の“心林”となるような環境林(里山林)となるように、散策道の整備、道案内板と植物看板を所々に設置。また、南北の出入口には、森の案内板を設置しました。Gゾーン展望台着いたら一休み! 街並みと帝釈山系、の眺望・景観図、丸太ベンチ設置、野鳥住处5ヶ所設置、しています。障害ある方や高齢者、地域住民の皆さんが楽しく散策できるようにと整備を進めています。

(3) 2011年度 地域とのコミュニティづくりの事例。

1) 地元小学校の自然環境学習支援(経年の支援活動)

2008年5月1日: テーマ「果樹園植樹と里山体験学習」

2009年5月11日: テーマ「身近な自然体験里山観察と山田道の探索」

2010年5月10日: テーマ「身近な自然体験里山林探索と樹木の観察」

本年は5月10日: テーマ「身近な自然体験里山林探索と体験学習」、「カブト虫の幼虫観察・森の声を聞こう、年輪しらべ、樹木調べ」等の自然体験学習を授業支援。

2) NPO 法人六甲山の自然を守る会主催「親子で楽しむ昆虫採集&天体観測」協賛

7月: 満天の星のもと、灯火昆虫採集や天体観測を実施。地域住民の皆さん40家族・約100名に参加して頂き、夏の一夜を楽しんだ。

3) 里山和楽会主催「身近な自然観察会」実施。

8月: 地域住民30名の参加「かがやきの径」植物観察・自然探索で楽しく散策。

4) かがやき神戸主催「第15回地域ふれあい祭り」(経年協賛支援活動)

2007年11月17日: 「里山探検と昔あそび」

2008年11月15日: 「かがやきの森・里山和楽会へようこそ!」

2009年11月22日: 新型インフルエンザの影響で中止。

2010年11月20日: 「かがやきの森・里山和楽会へようこそ!」

本年は11月26日「里山和楽会へようこそ!」協賛: バザー部門「堆肥・森の花写真で作った葉やカレンダー等販売」、イベント部門「木こり大会・ドングリ工作・オナモミダーツなど」。
販売品: 堆肥・葉の総売上金「かがやき神戸」へ寄付する。

5) 里山和楽会主催出前イベント「幼児向け、ネイチャーゲーム」実施。

2012年1月30日: 地元の小倉台ひまわり保育園25名の園児と「落葉プール、落葉で貼り絵、オナモミでダーツ、木こり体験など」おおはしやぎで楽しんだひと時。

※ 2012年度イベント: 上記の5催事、例年継続開催の予定。更に新たなイベントに積極的参加して、地域密着・地域活性化に活動を目指して取り組む。

(4) 活動の外部への発信

1) 10月

①国際森林年の記念行事「六甲山リレートーク交流フェア in KSC」で「里山和楽会の活動〜地域とともに〜」をテーマで発表。

②平成23年度神戸市環境奨励賞受賞。:

③ホンシメジ林地栽培着菌出来、秋季に収穫の予定。神戸農水産振興事務所、要請。

2) 2012年1月：広報誌・3誌の発行。

①「かがやきの森」東地区の『樹木図鑑』と『ミニ樹木図鑑』。

②「かがやきの森東地区散策マップ」春号・夏号・秋号。

③リーフレット「かがやきの森と里山和楽会」活動内容紹介を発行。

※経年かがやきの森を四季折々の樹木花・実の植生観察を続け、地域住民へ日常的にかがやきの森・東地区の散策を楽しんで頂く情報提供（配布）。

3) 2月：「里山和楽会の活動～地域とともに～」で発表と展示。

※自然やまちづくりに関すること、なんでも発表会「共生のひろば」（於：兵庫県人と自然の博物館）に参画。

4) 外部からの取材

①2010年10月、ドイツTV局「ZDF」社がテーマ「日本の高齢者の生活」取材にかがやきの森」里山和楽会の管理作業を撮影、ヨーロッパ内で、ドキュメント番組で放映された。

②2011年3月、韓国文化放送「MBC」社が同テーマの、取材に対応した。

③2011年5月兵庫県民局のホームページで活動の一端を紹介して頂いた。

<まとめ>

当初15名で始めた里山和楽会も、現在20名で活動しております。繰り返しになりますが、里山林の整備と再生の取り組みは、管理区域の設定から始まり、植生調査を行い、「**里山林整備グランドデザイン**」で目指す里山林を策定し、整備再生活動をしてきました。その中で作業の手順を「**里山林管理プログラム・各種マニュアル**」にまとめ、全員が同じレベルで作業（管理作業・植生調査など）することが出来ました。そのことにより、里山林管理作業は着実に、合理的活動で推移、週1回の活動は体力に合わせて、午前の3時間限定、午後はミーティングに2時間とし、チームごとの活動報告や次回の活動計画など、全ての情報を会員が共有できるようにしています。このことが5年間変わることなく持続的な活動を継続できた要因と思っています。

里山和楽会の活動で、最も留意したことは、和楽会の基本姿勢である会員の“和”と“楽しむ”、そして“安全”であります。同時に生態系維持や種の保全であり、一度誤って伐採した樹木は、枯死もしくは再生に何年も必要です。自然と関わる基本姿勢は大切に、今後も仲間と楽しみながら継続的に活動していきます。隣接住宅地の環境林の保持保全、生物多様性の維持、近隣の子どもの“故郷の森”となるような「心林」活動をしてまいります。最後に24年度で第一段階の里山林整備が完了します。その後、「かがやきの森・東地区」の環境整備と保全活動をどのように維持・発展させていくかが、大きな課題と考えています。

＜里山和楽会の活動 参考資料の紹介＞

里山林整備のボランティア活動当初、1、「**里山林整備 グランドデザイン**」2、「**里山林の管理プログラムと各種マニュアル類**」の作成について、学習・管理作業実務を進めながら、試行錯誤をして、里山管理手法を模索、数ヶ月掛けてまとめました。5年後の今日まで疑念ある事柄を改訂しつつ、新たに発生した事など加え、完成になりました。また、当然里山林管理活動は、整備が一巡しても完了ではなく、長期に継続し続ける保全活動が必要。今後継承頂くボランティア活動の方々へ手引書として利用して頂きたいと思っております。今回は紙面の関係で僅か要約部分だけを掲載させていただきます。

1、『里山林整備 グランドデザイン』について

- 1) 所在地 神戸市北区山田町下谷上字西丸山「かがやきの森東地区」
- 2) 管理者 社会福祉法人 かがやき神戸
神戸市北区山田町下谷上字西丸山 20-30 TEL078-582-5544 fax078-582-5526
- 3) 里山林整備ボランティア
団体名 NPO法人社会還元センター グループわ 「**里山和楽会**」
事務局 神戸市北区筑紫が丘 8-3-1 6 TEL078-583-3228 代表：道満俊徳

(2) 目的・目標

1) 目的

放置された当東地区里山林を整備・再生し、広く地域住民のいこいの場としての“心林”づくりを目指し、持続的な里山林保全活動を行うことを目的とする。

2) 目標

景観としては、「夏緑高林型（見通しが良く、山野草が咲く林内景観）」とし、生物多様性保護の場としての里山林を目標とする。また、合わせて里山林整備・再生をとおして自然体験や環境保全の場とする。

2、「里山林の管理プログラムと各種マニュアル類」について

この項はマニュアルの目的部分だけを掲載いたしました。

(1) 安全マニュアル

里山林管理活動の従事者が危険を回避し、活動を安全に行うため、また事故が発生したときの対応方法を明示し、速やかに処置を行う。

(2) 里山林活動で使用する道具類・資材類の管理マニュアル

里山林管理活動で使用する道具類(工具、計測機器や備品類を含む)や資材類(整備作業・植生調査・各種イベントで使用する資材類や消耗品・文具類)の管理方法を明確にし、それらの紛失を防止し、安全管理をする。

(3) 植生調査マニュアル

里山林管理を進めていくためには里山林の「学習」、「調査」、「管理計画」、「管理作業」、「追跡調査」、「継続管理」の手順を踏んで進めていくことになる。そこで、机上の「学習」は別として、まず里山林の実態を実践的に知ること、すなわち、「植生調査」が重要となる。この調査活動の結果から、「管理計画」が策定され、実際の「管理作業」が進められることになる。ここでは「植生調査」の方法・手順等の調査要領を明らかにして、誰もが効率よく、円滑に調査活動が推進可能な指針とする。

(4) 里山林整備マニュアル

里山林景観は、『里山林整備グランドデザイン』に基づき「夏緑高林型(見通しがよく、山野草が咲く林内景観)」とし、生物多様性保護の場とする。

(5) 落葉堆肥づくりマニュアル

里山林整備作業で発生する各種のバイオ原料のうち、落葉を集積し堆肥化し、地域住民の農園用、園芸用に提供する。(雑木林では毎年1ha当たり約6tの落葉が堆積)。

(6) 遊歩道の設置と整備マニュアル

「かがやきの森東地区」の里山林が、広く地域住民のいこいの場となるように、子どもや高齢者、障害のある人にも優しく、安全で、歩きながら森林浴を楽しめるようにする。また、子どもたちが自然体験や環境学習、ひいてはふるさとづくりの場として活用できるような遊歩道づくりを目指す。

(7) 天水利用施設設置概要

里山林の施設として、灌水がなく、場所柄山地・傾斜地なので、水道施設の設置は無理。年間通じて降る雨水を貯めて、頂上地にトタンで屋根と雨桶を設置し複数の貯水槽(風呂桶のリユース)を備えて、雨水を貯める天水施設を作った。

<追記>

私どもが活動の中で研鑽し作成してきた「里山林の管理プログラムと各種マニュアル類」、リーフレット「かがやきの森と里山和楽会」、「かがやきの森東地区里山散策マップ」、「かがやきの森(東地区)樹木図鑑」、「かがやきの森(東地区) 樹木ミニ図鑑」など、ご希望がありましたら、里山和楽会事務局までお問い合わせください。